

自由意志と道徳的責任を帰属する心理

オーガナイザー

太田紘史（東京大学）

堤題者

太田紘史（東京大学）

渡辺匠（東京大学）

松本龍児（東京大学）

山口尚（京都大学）

近年の社会心理学や実験哲学において、自由意志についての判断や信念が科学的研究の対象になってきた。社会心理学では、人びとの自由意志信念がどのような心理-行動上の効果や機能を持つかが調べられており、とりわけ、自由意志信念が責任帰属や自己統制などどのように関わるのか、また自由意志信念が社会的行動（援助行動、攻撃行動、不正行動など）に対してどのような影響を及ぼすのかが調べられている。また実験哲学では、人びとが自由意志（あるいは道徳的責任）を決定論と両立するものとして判断するのかどうか、またその判断を左右する要因は何なのかが調べられてきた。

今回のワークショップでは、自由意志を信じる心理とその社会的機能についての研究知見を整理するとともに、それらを解明するための方法論的および理論的な基盤を検討したい。そのうえで、こうした研究を進めていくこと自体が、人間や社会にとってどのような意義や価値を持つものなのかというメタ科学的な議論にまで踏み込めればと思う。

この目的のもと、まず四件の堤題を行う。第一に太田が、自由意志と道徳的責任の帰属に関する実験哲学的知見を整理したうえで、社会心理学的な研究への展開や接続について検討する。第二に渡辺は、社会心理学の実験で用いられてきた質問紙の問題点を指摘したうえで、より精緻な質問紙尺度の作成とそれを用いた実験結果について報告する。第三に松本は、自由意志信念がどのような仕方で社会的行動に影響するののかについて社会心理学からの知見を整理するとともに、その理論的理解に踏み込んで検討する。第四に山口は、こうした社会心理学や実験哲学の研究自体がどのような意義を持っているのを論じる。その後にはディスカッションの時間を設け、自由意志を信じる心理とその解明が持つ意義について検討を行いたい。